

第 8 回アカデミープレジデント会合 (APM) 会合概要
Academy of Science Presidents' Meeting

日時：平成 27 年 10 月 5 日 14 時 40 分～16 時 40 分

STS フォーラム (10 月 4～6 日) 期間中に開催

場所：国立京都国際会館 (Room104)

主催：日本学術会議

出席者：22 名 (18 か国 21 名、国際学術団体 1 名)

(内訳) カナダ、チリ、ドミニカ、フランス、ドイツ、インドネシア、韓国、ラトビア、レソト、マレーシア、ポーランド、ロシア、スロバキア、スーダン、タイ、イギリス、アメリカ、AASSA (The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia)、日本

議長：大西 隆 日本学術会議会長

Eisa El Gaali スーダン科学アカデミー会長

テーマ：持続可能な社会における科学技術の役割

出席者による自己紹介の後、大西議長より、科学技術や学術が SDG (Sustainable Development Goals: 国連持続可能な開発目標) などで示された持続可能な社会に向けて役目を果たしていくためには、社会との協働が重要であると冒頭発言があった。続いてこの一例として日学が国際事務局として参画している地球規模課題に関する国際取組であるフューチャーアース (FE) の動向が春日委員・FE-GHD より紹介された (カナダや独などから FE の取組を支持する旨言及あり)。

その後、自由討議が行われた。持続可能な社会に向けた学術の役割について、各国におけるこれまでの取組や国際連携の紹介にとどまらず、持続可能性の学問的意義や実現に向けた学術側からの具体的貢献や課題など本質的かつ実践的な議論が展開され、有意義であった。個別分野については、女性参加、科学教育、エネルギー問題、社会との協働、二国間のみならず国際的な連携の重要性が多くのアカデミーによって指摘された。最後に共同議長であるスーダンの Eisa El Gaali 共同議長より、学術が適切な貢献をすることで持続可能な社会の実現は可能であるととりまとめがあった。議論のポイントは以下のとおり。

(SDG と科学技術)

- ・ 現在の社会経済のトレンドを維持していくことは不可能。これまでは、科学技術が開発プロセスに十分組み込まれていなかったことは問題である。SDG の達成に科学技術は大いに貢献可能であり、SDG の取組における科学の役割を深めなければならない。
- ・ SDG 掲げる課題は、学際的であり、計測可能性の問題や複雑性の理論モデル構築など学問にとって根本的な課題を投げかけている。SDG の個々の目標ごとに孤立した取組は好ましくないし、学問の側でもフレームワークの変革が必要である。

- ・ 科学は価値判断に対して中立的とされるが、持続可能性という用語は価値判断を含んでいる。この点社会科学が貢献できる余地は大きいと考えられる。科学技術は人々がSDGに貢献するように仕向けなければならない。また、持続可能な社会を考える上では、世代を超えた視点が重要である。
- ・ 科学技術を活用する上では、データの収集やモニターなどエビデンスに基づいた取組が不可欠であり、技術革新によりデータの可能性が広がってきている（衛星、ビッグデータ等）。
- ・ 経済的繁栄と地球環境の維持の間にジレンマがある。天然資源は富の源泉であるが、天然資源を使い切ってしまうわけにはいかない。ここに科学技術の役割がある。例えば、より高付加価値の輸出産業を育成することが一つの解決方法。高付加価値の知識産業が繁栄するためにはイノベーションが必要。途上国は、科学技術力を高め、産業の高度化を進めることによってSDGに貢献できるだろう。

（重要分野に関する指摘）

- ・ 多くの国、地域が女性の参加に取り組んでいるが、この動きをより一層促進する必要がある。学術界においても女性の活躍を高めていく必要があり、その際バランスのとれたアプローチが適当。
- ・ SDGの目標の多くは教育に関係している。また、目標の達成のためには高度な知識をもった適切な人材が投入されなければならない。このため、社会的ネットワークを通じたよりよい教育の提供、科学リテラシーの涵養は必要不可欠である。教育レベルの引き上げにおいては、幼児教育が有効との指摘がある。さらに、イノベーションのためには人的資本の充実が必要。
- ・ 持続可能性に関する多くのイシューは困難なエネルギー問題に関係している。目標は安価で低炭素のエネルギーを供給することである。
- ・ 持続可能性に関してアカデミーの有する知識は限られている。すべての分野のアカデミーが力を発揮すべきであり、かつ、産業界など他のステークホルダーを巻き込んでいくべきだ。また、目標の達成のためには、人々が協働していくことも必要。加えて、政治における科学的解決法を取り込むためにもアカデミーは、政治的な影響力を高める必要があり、グローバルのみならず地域のレベルでも政治とのよい協働が求められている。
- ・ 二国間では多くのことが行われているが、様々な取組において世界規模での国際連携が有効である。例えばデータをどうやって収集するかは非常に重要な論点であり、国際連携が必要。また、グローバルな都市の連携は相互学習に有効。
- ・ 途上国における病気の克服、食糧問題の解決に加え、若者の健康といった問題への取組が優先課題。また、基礎研究のみならず応用研究も大切である。

（了）